平成３０年度　第３回　岡山市環境政策審議会概要

１　日時　　平成３０年１１月２６日（月曜日）　午後２時から午後３時まで

２　場所　　岡山市ほっとプラザ　２階研修室

３　出席者

委員：中村委員、福田委員、岸本委員、利根委員、藤原委員、大久保委員、岡﨑委員

岡山市：環境局長、環境局次長ほか関係職員

事務局：環境企画総務課

４　傍聴者　　１名

５　主な意見

事業系ごみ処理手数料の見直しを行うにあたり、現在のごみ処理コストの状況、他都市の料金と改定状況などについて説明を行い、質疑応答が行われた。主な内容は以下のとおり。

（●は委員、○は当局を示す）

●ランニングコストは、ごみ処理原価のコスト計算に含まれているか。

○ランニングコストとイニシャルコストが、ごみ処理原価に含まれている。

●京都と大阪は隣接しているが、ごみ処理原価が大きく違う原因は何か。

○大阪は、施設のスケールが大きく処理コストが小さくなっている可能性がある。
情報収集を今後行う。

●ごみが減少すればごみ処理原価は上がる。処理施設の能力とごみ量から分析するべきでは。
手数料を見直すに当たり、目的は何か。市の収益なのか、ごみ量の減量なのか。
ごみ処理手数料を上げると、手数料を支払っている業者の抵抗が大きい。
不法投棄が増える可能性がある。

●他の自治体のごみが岡山市へ搬入されることがあるか。
周辺自治体と比較し、岡山市のごみ処理手数料が安いと、岡山市にごみが入ってくるのでは。

○周辺自治体のごみ処理業者が、直接岡山市へごみを搬入することはない。
状況に応じて、その自治体が責任を持って搬入することになっている。

●ごみ処理原価が増えた要因は何か。

○ごみ処理量が減ったこと、平成２６年に新施設「西部リサイクルプラザ」が完成したこと、その他施設の老朽化で修繕料が増えたことが原因と考えられる。

●新施設となる広域処理施設も加味した検討が必要なのではないか。

○新施設は平成３７年稼働予定であり、その時は、施設停止、立ち上げ稼働によるコストの波が出るため、今後様子を見て検討する。

●平成２７年度の事業系ごみが増加したのは、イオンがオープンしたのが原因か。
事業者それぞれの排出ごみの量はわかるのか。

○小さい業者の排出量はわからない。大規模事業者の排出量は、減量計画書を作成するためわかるかもしれない。

●ごみ処理量が減れば、ごみ処理コストが上がる。ごみ処理能力で割った数字が確かな数字となるのでは。この数字が高ければ、市の管理・運営が悪いということになる。
何を、目的とするかが大切。

●利用する市民は、ごみ処理手数料を下げたい。市は、収入を増やすため上げたいとなるが、ごみを減らすことが目的になると思う。事業系ごみの構成などを把握する必要があるのではないか。

●ごみ処理コストに対するごみ処理手数料の負担率がかい離している。

●かい離した部分は、間接的には税金となる。ごみ量を減らすため負担率は上げたいが、景気がいいと自然とごみ量が増える。

○今後は、他都市の情報収集と関係団体等へのアンケート調査を予定している。
その結果を踏まえ、岡山市環境政策審議会の次回開催を考えている。